

2023年度病院勤務医の負担軽減の計画

2023年7月1日 京都民医連中央病院

項目	現状	目標	達成状況
			2024年3月
医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担の具体的内容	退院支援ラウンドの継続 PFM(ペーシェントフローマネジメント)チームを始動。	退院支援ラウンド:毎週火水木の午前中ラウンド継続。PFMチームで業務内容の整理、質の向上を図る。	
医師事務作業補助者の体制拡充	業務拡充を少しずつ行っている。	多職種とPFMチームでタスクシフトしながら業務をつなげていく。診療支援課の増員を継続募集する。	
勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施	内科外科の連続当直を行わない体制は維持できている。引き続き医師確保に努める。	引き続き医師の確保に努める。特に外科系医師確保に努める。	
勤務間インターバルの確保	概ね早期退勤出来ている。数名の医師への配慮を行う。	引き続き超勤時間の削減を目指す。	
予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	努力をしている。	非常勤医師を確保し、日勤帯の当番、当直の医師確保を継続して行う。予定手術前日の当直は外すなど調整する。	
当直翌日の業務内容に対する配慮	当直翌日の朝は業務フリーおよび午後の勤務免除、もしくは一週間以内に半日勤務免除の制度があるが、フリーに出来ない場合もあり。	当直翌日の朝は業務フリー。当直翌日午後の勤務免除もしくは一週間以内に半日勤務免除を取得できる。	
主治医制の見直し実施	専攻医に上級医との複数担当、時短取得医師にも複数担当、少数科の複数制など実施	紹介逆紹介しながら、地域の診療所・クリニック等との複数主治医制を行う。院内の入院主治医複数担当を広げていく。	
短時間正規雇用医師の活用	7名を維持	7名	
非常勤医師の確保	常勤換算で18.7名。	常勤換算20%を目指す。	
トラブル対応の際の支援体制の強化	努力している。	引き続き体制を確保し、トラブル対応の質の向上をはかる。	